

一九〇五年に孫文（孫中山）は、自らが結成した興中会、後に北京大学学長となる蔡元培らの光復会、そして黄興・宋教仁らの華興会などの革命諸団体を結集して、東京で中国同盟会を結成した。その際、孫文は三民主義に基づいて、「驅除韃虜（満州人を追放する）・恢復中華（漢人の支配を取り戻す）・創立民国（共和制の国家を創る）・平均地権（土地改革を目指す）」の四大綱領を提唱した。中国同盟会は辛亥革命で帝政を終わらせ、アジア初の共和制国家の中華民国を成立させることには成功した。しかし、臨時大総統の地位を北洋軍閥の袁世凱に譲らざるを得ず、彼らの戦いの相手は清朝から袁世凱へと移った。

中国の革命について授業をするとき、ひとりクスツと笑ってしまうことがある。政治団体の華興会が私たちの属している「書こう会」と偶然にも同じ発音だからである。日本語は他の言語と比べて同音異義語が多いと言われているが、これもその例に漏れない。この会の名称は偶然、華興会と同じなのだろうが、授業をしていて気になる語句である。

華興会は湖南省出身の人が多く、夷狄の満州人を倒して、漢人の中華を復活させるという政治目標を持つ革命組織である。湖南省には、孫文が結成した国民党を、国共内戦で破った共産党の毛沢東の生家がある。また、湖南省の南には孫文の出身地の広東省がある。そして、湖南省の北には湖北省があり、省都は辛亥革命が発生した武昌など三都市を併せた武漢である。ここはコロナ発生源とされた都市で、多くの人々の記憶に残っていると思う。

黄興は華興会を結成した翌年に、湖南省で武装蜂起を計画したが事前に漏れ、日本に亡命した。その後も彼は中国で活動、日本に亡命ということを繰り返し、孫文と共に革命の双壁と言われている。これほど大活躍した黄興であるが、孫文と比べて知名度には格段の差がある。台湾では孫文は、あちこちに大きな写真、国父記念館に大きな像、地名として中山区・中山駅に名前が残っている。孫文は「革命いまだならず」ということばを残して亡くなったが、黄興も同じ気持ちで亡くなったのだろうか。

書こう会も革命が似合うかな？